

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東京医科歯科大学				
取 組 名 称	医療と造形				
取組学部等	歯学部、教養部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22019	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	教養教育	専門基礎	その他		
キーワード	塑像制作, 連携教育, 身体知, 美術解剖学, 復顔術				

### <選定理由>

本取組は、教養教育の中で歯学医学・歯科医療上重要な顔面・頸部の解剖学を理解するためのプログラムとして高く評価できる。近年の歯科医療においては、口腔・頭蓋・顎・顔面領域の疾患の予防、診断、治療という目的に審美的要素が加わり、単なる解剖学ばかりではなく当該部位の美的要素を加味して、顔貌とその下地をなす筋肉と骨格の関係を有機的に理解する必要があるとされている。このためには、頭部の塑像制作が重要であるとの結論から、東京芸術大学から美術解剖学の専任教員を招聘して行なわれるもので、着想がユニークであり、異分野との連携教育を行なおうとする点に意義のある取組である。

しかし、本取組は平成18年度より試行的に実施されているが、顔面形態の理解に当たり従来型解剖学との優位性についての評価が未だ行なわれておらず、歯科教育においてこのような取組が将来必須であるかについての結論を得るためには、十分な検証が行なわれる必要があり、このことについては、今後一定の成果が得られることを望む。

取組の概要【1 ページ以内】

本学は医師歯科医師養成を目的に設立された国立大学法人唯一の医療系総合大学であり、医療人に求められる「幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の養成」を教育理念の一つとしています。本学教養部はこの理念に沿った教育プログラムの一環として、平成18年度に 教養としての**身体知**を育むことを目的とする新科目、「彫刻」を開設しました。彫刻は基礎医学における人体解剖と異なり、受講者全員が生きた人モデルを使って塑像を制作するもので、人を人として理解する人間科学において、生きた人のかたちと機能を体得する場と位置づけられています。

本取組は、これまで選択科目として試行的に行なわれてきた「彫刻」を、手を使った造形能力が特に要求される歯学部歯学科学学生全員を対象とする新科目「医療と造形」へと発展させ、**塑像制作実習**を中心に据えた作品づくりを通して、身体のかたちと機能を理解することを目的とした**歯学部と教養部の 連携教育**として実施するものです。

「医療と造形」は以下の4つの要素で構成されます。

1. 人モデルを用いた頭部の塑像制作実習：手で学び、考える（講師：東京藝術大学教員）
2. 美術解剖学講義：芸術作品における人のかたちと表現（講師：東京藝術大学教員）
3. 科学捜査技術としての復顔術：科学捜査と解剖学（講師：科学警察研究所研究員）
4. 歯と顔貌：（講師：歯学部教員）

「医療と造形」は人のからだのかたちと機能への知的欲求を高め、専門教育への興味を涵養するとともに、技術的なスキル評価なしに入学した学生にとっては外科系医療技術の基礎訓練の場ともなり得るものであり、専門教育への橋渡し教育としての効果が期待されます。

